



北区エバンジェリスト検証授業① 中学校3年国語

探究学習を取り入れて、学習意欲を高める

北区では、ICT(情報通信技術)を積極的に活用するため、毎年12名の先生を「北区エバンジェリスト(ICT活用を広める先生)」として選び、年4回、効果的なICT活用授業の検証を行っています。

今年度の第1回目は、稲付中学校の小林 学先生が担当し、中学3年生の国語「高瀬舟」の授業を参観しました。

「高瀬舟」は森鷗外の文学作品です。江戸時代を舞台に、弟を殺した罪で遠い島に流される兄・喜助(きすけ)と役人が高瀬舟の中で交わした会話を通して、「生きる意味」や「幸せとは何か」について考えさせられる物語です。物質的に貧しくても、心の持ち方で幸せを感じられることが描かれています。

今回の授業では「探究学習」を取り入れました。探究学習とは、児童・生徒が自分の興味のあるテーマを深く調べ、自分の考えをまとめて発表する学習方法です。自分で課題を見つけ、解決策を考える力や、自主的に学ぶ姿勢を育むことで、将来社会で必要な力を身につけることを目指しています。



◆自分の「問い」を大切に

生徒たちは「高瀬舟」を読んで、「なぜこう言ったのだろう？」など、自分で疑問を見つけました。心の動きを想像して考えを深め、自分なりの答えをプレゼンテーションにまとめました。全員が同じ答えになる問いではないため、一人ひとり違う考えが生まれ、生徒たちは友だちの問いにも興味深い様子で、意欲的に取り組んでいました。

◆表現するアプリは生徒が決める

「きたコン」にはいくつかプレゼン用のアプリが入っていますが、生徒たちは自分の伝えたいことを表現しやすいアプリを自分で選んで使っていました。このように選ぶ過程でも、主体性が育まれていました。

◆自分に合った学び方で活動

完成したプレゼンは少人数のグループで発表し合い、お互いに意見を交換してコメント用紙に感想を書いて渡していました。発表が終わった後は、自分の活動時間になります。コメントをもとにプレゼンを直したり、新しい疑問を調べ直したり、友だちに発表を聞いてもらったりと、一見すると自由に動き回っているように見えますが、どの生徒も自分に必要な学びを深めていました。

◆自分の考えの変容が見える工夫

「高瀬舟」の学習では、これまで問いに対してどのように取り組み、考えが変容してきたかを「きたコン」に記録して見える形にしています。それを自分で見ることで、自分の成長を確認できます。その成長は、さらに学ぶ意欲につながることでしょ

「北区GIGAスクール通信 みらい」は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、学び未来課が毎月発行いたします。

きたちゃんコンちゃん

by Toshi



◆最後に

授業を参観する前は、「国語で探究学習は難しいのでは？」と思っていましたが、工夫次第で十分可能だと分かりました。生徒が意欲的に学んでいる姿を見て、他の教科にもこの学び方が広がってほしいと思いました。

